

秋田県 高P連会報



No. 117

発行／秋田県高等学校PTA連合会 事務局／秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F TEL018(863)6681 印刷／秋田中央印刷株式会社



写真：長澤 善徳氏

■「子どもはみな、励まされて希望を持つ」

秋田県高等学校PTA連合会副会長 村岡 昇

「死と生は舌に支配される。どちらかを愛して、人はその実を食べる。」(聖書)

これは知恵の書と呼ばれる箴言の1節です。古来日本では、「ことば」を「言霊」と呼び、先人たちは「ことば」に不思議な力が宿っていることを認めていました。人はことばを通して、日々人生の種蒔きをしています。良い種(感謝・励まし・肯定的なもの・褒める等)を蒔くと、いのち溢れる豊かな人生を刈り取り、悪い種(批判・悪口・不平不満・偽り・否定的なもの等)を蒔くと死をもたらすような人生(低い自尊感情・人間関係の悪化・心の病気・将来に夢を持てない等)を刈り取る結果になります。

ノーベル医学生理学賞を受賞された大村智先生は、オンコセルカ特効薬を開発し、毎年2億人以上を感染症から救っています。これは大村先生がロイヤリティを放棄し、無償で配布することに同意されたからできたことです。さらに先生は、生まれ故郷の山梨県韮崎市に私費を投じて、韮崎大村美術館や温泉施設等をつくり、地元にも貢献されています。「ひとのためになることを考えなさい」と幼い頃からおばあちゃんに教えられて育ったので、それが自分の価値観になったそうです。

子どもは、大人の励ましで一変します。地域の宝である子ども達が、自分の価値に気づき、やる気を出せるように、これからもPTAとして子どもの心に励ましの言葉を蒔き続けたいものです。

第65回全国高校PTA連合会大会

岩手大会

平成27年8月20日(木)～21日(金) 岩手県盛岡市・滝沢市

「未来圏からの風をつかめ! ～新時代を担う君たちと共に～」をテーマに、全国高P連大会岩手大会が、8月20日・21日に岩手産業文化センターを主会場に、全国から約9500名(本県からは104名)が参加して盛大に開催されました。

開会式では、PTA活動に功績のあった個人、団体に全国高P連佐野元彦会長より表彰状が授与。我が秋田県から次の皆様が表彰されました。おめでとうございます。

全国高P連大会会長表彰

個人	楊 葉子	県高P連前副会長
	和賀 幸雄	県高P連前副会長
団体	大館工業高校PTA	
	秋田中央高校PTA	

さて、2011年3月11日に発生した東日本大震災。本大会はその被災地で開催される初めての大会です。震災から4年以上の年月が流れ、被災地の復興に向けての人々の気概、心意気を感じる大会となりました。

基調講演では、「夢高くして足地にあり」と題し芝浦工業大学学長 村上雅人氏より「教師の役割は若者に夢を与えること。若い人が志を持つことが一番大切」と講演を頂きました。

その後、7会場に分かれ分科会が開催され、基調講演、パネルディスカッション、事例発表などが行われました。

第4分科会では、県高P連前母親委員長・能代高校PTA前副会長の楊葉子さんから「母親の前向きな姿、無償の愛に支えられた子どもたちは安心と誇りをもって自己の目標に向かって努力し進んでいける、まさに未来を見据えた健全な精神が育成されるに違いありません」と発表があり、参加者からは大きな賛同の拍手がありました。また静岡県の高校からは、PTAで卒業生の保護者と語る会(保護者によるキャリア教育)を企画したところ、受験期のノウハウやメンタル面でのサポートなど経験者から生の声を聞くことにより共感を呼び、PTA総会の参加率が79%となった事例などが発表され、会場から多くの質問が出るなど活気ある分科会となりました。

二日目は、映画監督・大友啓史氏により「アドリブを生きる」と題する記念講演で始まり、閉会式で大会宣言が採択され、得るものが多くあった2日間の全国大会が幕を閉じました。次年度の大会は、平成28年8月25日・26日に幕張メッセ(千葉市)で開催されます。

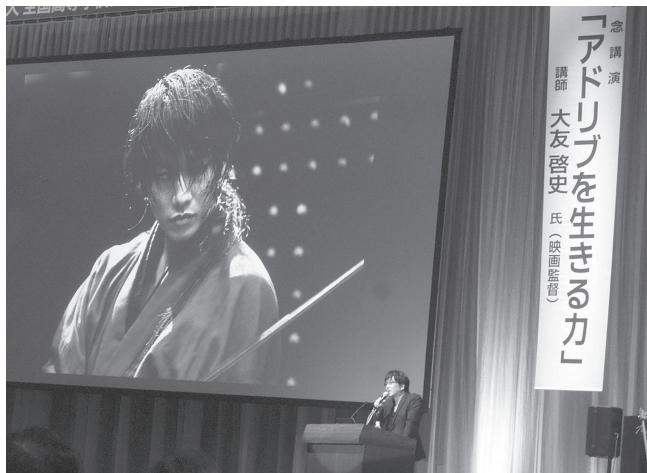
調査広報委員 信太 浩信(明徳館高)



盛岡市立高校吹奏楽部のマーチング



あいさつする全国高P連 佐野元彦 会長



記念講演 映画監督・大友啓史氏



広報紙展示コーナー

第4分科会

「温かさに感謝」

県高P連前副会長・前母親委員会委員長

楊 葉子

「断らないで下さいね」という県高P連三浦前事務局長からの一本の電話。それは盛岡での全国大会発表と言う私の人生最大のプロジェクトの始まりでした。「家庭教育とPTA」という第4分科会のテーマのもと、当日は私が伝えなかった事、「母親委員会の活動と意義 継続の大切さ～子育ては一日にて成らず」というテーマでつたないながらも精一杯発表させていただきました。このような素晴らしい機会をくださった三浦前事務局長、そしてすべての準備に快くお力を貸してくださった澤井事務局長、淡路事務局員、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、能代高校や応援し励ましてくださった能高PTAの皆様、発表当日も会場で見守ってくださり、温かいご声援をくださった秋田県各高PTAの皆様、心から感謝致します。今回の経験は、秋田県の人たちの温かさやPTAの絆で、こうして素晴らしい子どもたちが育っているのだと、あらためて感じ入る機会になりました。素敵な時間をありがとうございました。



発表する楊さん

全国高P連会長表彰
受賞者コメント

受賞後の神成さん、和賀さん、楊さん



県高P連前副会長・前進路対策委員長 和賀 幸雄

日本の景気が上向く中で、人口減少が著しい本県では人材確保が困難になっています。地元にも大卒者を積極的に採用している企業等が多くあるにもかかわらず、地元出身の大卒者の応募が少ないとの声を聞きます。つまり現在行われているキャリア教育の結果とのギャップが深刻であることを意味しています。

今後は学校と地元事業所との連携を深め、求められる人材像を学校と保護者と共有することが重要です。3年間の高P連活動では進路指導対策委員会に所属し、この点を訴えてきました。今後も様々な場面で発言して参ります。有難うございました。

大館工業高校 PTA会長 神成 洋輔

本校PTAは創立と同時に活動が始まったと聞いております。交通安全活動、声かけ運動、強歩大会の関門での激励と補食の提供、学校祭での「あらがね魂子(たまご)」の仕込みと販売等々、数え切れない活動を行ってきました。その陰には「館工の生徒は自分の子どもと同じ」が常にありました。また、13の支部PTAを組織し、活動しました。生徒は3年間ですが、PTAの諸先輩は十数年携わっている方もおります。来年度から大館桂桜高校PTAとしてさらなる発展を祈念します。すばらしい岩手大会での全国表彰ありがとうございました。

県高P連前副会長・前母親委員会委員長 楊 葉子

この度は、このような素晴らしい表彰をして頂きありがとうございます。子育てもかれこれ25年、ただただ、子ども達の幸せを祈りつつ、慌ただしい毎日を過ごして参りました。初めは我が子の学校生活を応援したくて参加したPTA活動、しかしいつしかそれは私の中で、出会ったすべての子ども達に送るエールとなっていました。振り返るとあつと言う間のPTAとの関わりでしたが、沢山の温かい方々に支えられ、助けられ素晴らしく感動的な思い出ばかりです。ここまで導いて下さった多くの皆様、PTA活動を通してお世話になった皆様本当にありがとうございました。

秋田中央高校 PTA会長 杉本 正

娘が保育園に入園してからPTA活動を開始して今年で14年になります。この間の活動で心がけていたことは、極力参加する、無理はしないの二つでした。秋田中央高校での3年間は、特に仕事との兼ね合いで参加できないこともありました。そのような中、今年度「全国大会・会長団体表彰」を受賞できたのは、歴代の会長をはじめ役員を中心とした本校PTAの取り組みが評価されてのことだと思えます。今後もこれまでの流れを止めることなく、さらに発展できるように活動していきたいと思います。

第28回 母親会員交流会

もう一度見直そう 家庭から発信できること

平成27年9月16日(水) 秋田県生涯学習センター 講堂

母として 人として



今年の母親会員交流会は、講師として佐藤友子先生をお迎えし、実技を交えながらマナーについて講演していただきました。「マナーとは、相手に対する思いやりの心を形に表すことであり、マナーを学ぶとは、自分に謙虚であり、相手を敬う感性を育てることである。」というお話にマナーの奥深さ

を感じました。基本的なマナー実技や豆知識等をご指導いただき、充実した学びの時間を過ごすことができました。古(いにしえ)の時代から先人達が大切にしてきたその心を、学んだマナーを実践しながら、母として子どもに伝え、人として社会に広めていきたいと思いました。午後からはグループ討議やヨガが行われ、心も体もリフレッシュできた有意義な一日となりました。

「参加して良かった」「また来年も参加したい」「他のお母さん達にも伝えたい」など多数寄せられ、会が成功したことの手応えと共に、今後も継続を望む貴重な会であることを実感しました。

県高P連副会長・母親委員会委員長
山信田 勢津子(横手高)



生涯学習課長
沢屋 隆世 氏



高校長協会長
伊藤 成年 氏



講師 佐藤 友子 氏



折形・結びのいろいろ

楽しい交流会をこれからも…

「伝えよう親から子へ、マナーの習慣は社会性を身につける第一歩」という演題で、佐藤先生のお話を聞きました。午後からはグループに別れて、マナー実践とグループ討議をしました。ほとんどのお母さん達が初対面なのですが、マナーの話しや、学校や育児に対しての悩み相談だったり、共感する事が多く、皆同じような悩みを持つ仲間なんだなあと実感し、同じ時間を共有出来た事がとても心強く感じました。

会が終了して、帰りのお母さん達が皆笑顔で挨拶を交わしている姿を見て、とても嬉しく思いました。少しでも元気になって、その笑顔と元気を家庭に持ち帰ってもらえるような交流会をこれからも続けて行って欲しいです。

母親委員会副委員長 庄司 美浦子(秋田北鷹高)

マナー実践
と
グループ討議



ヨガ講師の由利 栄美さん(本荘高)



ヨガで
リラックス



生涯学習課社会教育主事
森川 勝栄 氏

からだのリラックスが 気持ちのリラックス

グループ討議で活発な意見が出され緊張感が少し緩み、初対面同士もすっかり打ち解けた中、椅子の向きを変えただけで始まったヨガ。静かに流れる音楽に合わせ、参加者全員がゆっくりヨガの動きを楽しみました。思うようにポーズができず苦笑する私の周りでは見事なポーズを決める方、低く苦しそうな声を出される方。それらが次第に心地よさそうな呼吸に変わりリラックスした満足顔になっていました。ヨガがリラックスには十分な効力があることはわかりました。しかし、母親委員の私は何より参加された多くの会員の方と同じことを実践でき、多くを共有できたことに感動した交流会でした。

「余裕のないときは、ヨガ…」これからは、これです。

母親委員会副委員長 佐川 ひとみ(秋田北高)



役員の皆さん方お疲れ様でした。岩手県高P連母親委員会委員長 大浦奈保子さんにも参加いただきました。

県北地区

平成27年10月8日(木)
北秋田市交流センター

秋田北鷹高校PTA会長 長岐 薫



県南地区

平成27年9月25日(金)
横手セントラルホテル

雄物川高校PTA会長 石田 博

高校生の「未来を生きる力」を育てる ～自らの人生を切り拓いていくために～

今回講師の藤岡茂徳さんはオリジナルブランド米の生産・販売会社の経営をされて、旧合川高校のPTA会長のご経験もある



という、いわば私たちの大先輩。山登りになりたくて高校卒業の次の日にはもう長野に行っていた話や、耕耘機で全国を旅して回ったこと、同期で誰も従事していなかった農業をあえて継いだこと、途中で農地を手放した経験、経営者としての経済哲学や人の育成など、滅多に経験し得ない内容と直球勝負のお話に驚きの連続でした。その中でも「子は親の姿を見ている」「親は親、自分は自分で、自らの人生をいかに全うできるのか」という言葉はとても印象に残りました。参加者の皆さんも高校生の子を持つ親としていろいろなヒントをいただいたのではないかと思います。



リズム演奏 息が合っていました。

講演の後は北秋田ドラムサークルの皆さんリードで、参加者全員でゼンベというアフリカの太鼓はじめ、さまざまな打楽器によるリズム演奏を楽しみました。

子どもを取り巻く社会の変化に、 PTAはどう対応していくか



県南地区では、20校から160名を超える参加者を迎え開催された。

開会式のあとの講演会では、横手市を拠点に若者たちをサポートする活動を行って

いる秋田県南NPOセンターの奥ちひろさんから、「秋田と若者たち」と題し、若者支援の在り方を通して子育ての変革運動を示していただいた。

午後からは、「情報端末活用」、「家庭のしつけ」、「PTAの役割」の3つの分科会に分かれ、熟慮された基調提言と活発な意見交換がなされた。

多くの方々にとって、ふだんの仕事から少し離れたところに身を置くことで気分転換になったと思うし、色々なことを学べた会になったのではないだろうか。そして何よりも多くの方々に支えていただき盛大な会となって終わったことに感謝したい。



県南NPOセンター 奥ちひろ 氏

中央地区

平成27年10月9日(金)
サンルーラル大潟

五城目高校PTA会長 伊藤 英

地元を見直そう！～地域と連携したキャリア教育～

平成27年度中央地区交流大会は、10月9日サンルーラル大潟を会場に4名の来賓の方々、110名の参加者を迎え、盛大に開催されました。

ちょうど一年前、幹事校となった五城目高校では、この大会をどのように執り行うか真剣に議論されていました。第一に日時、そして会場と、ここまでは順



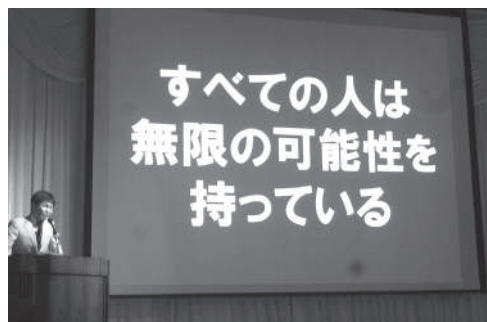
受付する男鹿南秋潟上地区4校PTAの皆さん

調に決まりました。

しかし、内容は???。みんなが思いました。「来年度になってから考えよう。」こうして、この大会の準備は始まったのです。

実際に準備が始まったのは、5月からでした。予算、講師の手配、受付の人数と、準備することは山のようにありました。しかし、周りの方々の御協力により順調に準備が整いました。当日は、男鹿潟上南秋地区4校のPTAの方が受付を引き受けてくださり、華やかさが加わりました。講師の先生方のパワー溢れるお話に感動し、また、本校のインターアクト部の生徒もピンクの着物を着て楽しげに踊っていました。

今回の大会は、改めて地元を見直す機会になったと思います。御協力頂いた多くの皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



ハバタク 丑田俊輔 氏

委員活動報告

健全育成委員会



JR大曲駅での大曲農、大曲、大曲工、秋田修英
合同一声運動の様子

少子高齢化社会の到来は、産業経済の構造的な変化や雇用の多様化をもたらし、就業をめぐる環境も大きく様変わりしています。とりわけ若年層においては、社会人としての素養の欠如や自立の遅れなどが疑問視されています。

最近では、スマホの急速な普及によるネット依存や対人トラブルの増加、さらには学習意欲の低下など、もはや看過することの出来ない課題が深刻化しています。

これら問題行動の要因として、人間的なつながりの希薄化が少なからず影響しているものと憂慮されます。

このようなことから、健全育成委員会では「登校時一声運動・マナーアップ運動」の取り組みを一段と強化しました。また、12月16日には秋田高校を会場に、川島隆太先生(東北大学加齢医学研究所所長)からスマホに関するご講演をいただ

きました。紙面の都合で詳細は割愛せざるを得ませんが、「TVは脳に毒であるし、スマホの過度な使用は学力にも運動能力にも悪影響を及ぼす。」という検証結果に、ある種の不安と驚きを覚えました。

上記のほか、危険ドラッグに潜むリスクや自転車の危険運転防止、公共交通機関の乗車マナー向上や主権者教育など活動範囲は複雑多岐にわたり、当委員会の果たすべき役割はますます重要となっています。

高校生の健全育成に当たっては、あいさつ運動の推進やPTAの連携もさることながら、家庭・学校・地域が三位一体となって、お互いの目配りと気配りが必須要件ではないでしょうか。

健全育成委員長 佐藤 義一(角館高)



川島先生と秋高生のディスカッション

調査広報委員会

今年度の調査広報委員会は委員18名で運営しています。主な活動は、年2回の会報発行と広報紙編集研修会及び広報紙コンクールの開催です。

上期の活動は、9月に「会報116号」を発行しました。また、同月に秋田魁新報社 編集局制作センター長 佐藤誠吾氏を講師にお迎えし広報紙編集研修会を行い、約30名の参加がありました。講義に加え各校で発行した会報紙を講師と一緒にディスカッション形式で意見交換したことが今後の会報紙づくりの参考になったと参加者の皆様には好評でした。

下期活動は「会報117号」発行と広報紙コンクールとなります。

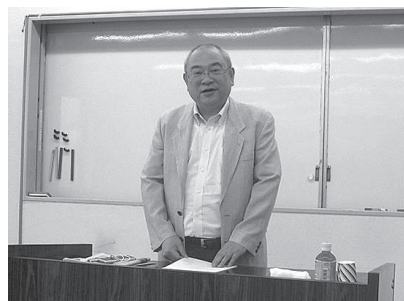
委員会名にあります「調査」につきましてはどう取り込んでいくか具現化できていないのが現状ですが、来年度の委員会活動の取り組みに反映させていきたいと考えています。

最後に会報発行につきまして、原稿をお願い致しました方々に快くお引き受け頂きましたことにお礼を申し上げます。今後とも関係者各位のご協力をよろしくお願い致します。

調査広報委員長 関 守(仁賀保高)



広報紙研修会



講師 佐藤 誠吾 氏



受講の皆さん



いろいろな気づきが得られました



『教育懇談会』

例年、県教育委員会と県高P連では教育問題に関する教育懇談会を実施してきました。本年度も11月11日(火)に生涯学習センターにて開催し、4つの懇談テーマを中心に意見交換させていただきました。

懇談を通し、これまで以上にお互いの理解が深まりました。そして、子どもたちを取り巻く教育問題改善のために共に連携協力しあって

いかなければならない大切なパートナーであることを改めて認識させられました。また、より広い視野に立ち、子どもたちの生活全体を見通した上で問題解決にあたっていくことの大切さとともに、私たちPTAもこれまで以上に教育行政について日ごろから関心を高め、理解を深めていかなければいけないと感じました。

丁寧な回答と助言を頂いた担当の皆さまには心よりお礼申し上げます。

今年度の懇談テーマと主な内容

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1 いじめについて | 「いじめ調査」及び生命や人格の尊重などモラル面での指導の現状 |
| 2 第7次県高校総合整備計画について | 第7次総合整備計画の特色と高校再編計画の概要 |
| 3 主権者教育について | 副読本の活用など高校及び家庭における主権者教育のあり方 |
| 4 就学困難の実情について | 本県の実情と対応 |

出席者

- | | | |
|-------|--|-------------------------------|
| (県関係) | 企画振興部人口問題対策課 | 高橋 修課長、佐藤功一副主幹 |
| | 高校教育課 | 安田浩幸課長、佐藤有正政策監、渡部克宏主幹、佐藤彰久副主幹 |
| | 生涯学習課 | 沢屋隆世課長、小玉雅彦副主幹 |
| (高P連) | 佐野元彦会長(秋田)、村岡昇副会長(大館国際情報)、石嶋勝比古副会長(能代工)、佐藤義一副会長(角館)、山信田勢津子副会長(横手)、庄司美浦子理事(秋田北鷹)、佐川ひとみ理事(秋田北)、川村鈴子理事(国学館)、工藤弘之理事(由利工)、橘正幸理事(大曲農)、松本恵理事(秋田修英)、他事務局2名 | |

お知らせ

秋田県高等学校PTA連合会 『高校生総合補償制度』

— 傷害総合保険・自転車総合保険 —

本制度の特徴

部活動中やお休みの日のケガなどを補償、
自転車事故での賠償などに幅広く対応

自転車事故などによる損害賠償責任も
最高1億円まで補償

PTA会員専用のお得な保険料
月々約140円から加入可能(最大23.5%割引)(*)

保護者に万が一があった場合の
学資費用、育英費用も補償

*自転車総合補償C1プランの場合 *団体割引15%、制度割引10%

～中途加入のおすすめ～

中途加入募集締切：毎月26日締め切り⇒翌月1日から補償されます。
(例えば2月26日までにお申し込み⇒3月1日から補償が開始します)

パンフレット・払込取扱票のご請求やお問い合わせはお気軽に

- <秋田県高等学校PTA連合会指定・事務幹事代理店> 株式会社アキタ保険
〒010-0951 秋田県秋田市山王6-5-9 TEL: 018-864-6921 FAX: 018-864-6922
- <引受保険会社> 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 秋田支店法人支社
〒010-0921 秋田県秋田市大町3-3-15
TEL: 018-862-4463 FAX: 018-864-8538 (受付時間：平日の午前9時から午後5時まで)

このチラシは概要を説明したものです。詳しい内容については、指定募集代理店または損保ジャパン日本興亜までお問い合わせください。

SJNK15-14908 2016.1.19